

日本細菌学会 2019年第1回理事会議事録

- 日 時：2019年2月28日（木） 13:00～17:00
- 会 場：東北大学東京分室（サピアタワービルディング 10階）会議室A
- 出席者：赤池孝章 理事長、
川原一芳、河村好章、菊池 賢、小松澤 均、寺尾 豊、富田治芳、中根明夫、長宗秀明、
西川喜代孝、林 哲也、堀口安彦、松下 治、山口博之 各理事
川端重忠 監事
- 欠席者：大西 真、高井伸二、中川一路 各理事
西川禎一 監事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

平成30年第1回理事会を開催する。挨拶は特にないが、本日の審議で、第94回総会長候補者をできれば決めたい。事前に事務局から照会してもらっているが、ふさわしい候補者がいれば審議事項の際に、発言してほしい。

II. 確認事項

前回理事会の議事録案について：事前に配布しているが、本日の会議閉会までに修正などあれば、発言してほしい。*修正等はなく、議事録は確定した。

III. 総会報告

- 1) 第92回総会準備状況報告（山口博之 第92回総会長）：山口第92回総会長より資料に基づき以下の報告があった。日程表は前回の理事会でも見てもらったものだが、学会のスケジュールが確定している。総会前日4/22(月曜日)は、市民公開講座を16:00から開催するので、理事会は(変則的だが)11:00-14:00となっている。それに伴い評議員会も、14:00から16:00となっている。市民公開講座は、2名の先生(北海道大学の中垣先生とJAMSTECの高井先生)に登壇してもらう。第1日目4/23火曜日だが、今回は経費を節約するために、国際シンポジウムを初日の1セッションとした。ポスター会場は、3つのゾーンに分かれてデジポスを実施する。70インチモニターを用いた口頭発表(pdfを事前登録)であり、一人持ち時間5分(発表3分質疑応答2分)。選抜WSへのデジポスからの再選抜は1日目に実施する予定である(選抜WS希望者のみを集めてセッションを組んだ)。ポスターの説明・討論時間は、デジポスでの発表機会があるので、コンパクトになっている(奇数偶数番号各30分の説明時間、計1時間)。初日のランチョンは、ミヤリサン製薬が担当。同時に展示会場では、例年と同じような展示数(18団体)で展示が実施される。2日目は、例年通り会務総会と浅川賞の受賞講演が行われる。ポスター会場は1日目同様に3つのゾーンに分かれてデジポスが行われる(ランチョン、会務総会、浅川賞受賞講演とは彼らない)。ポスターの討論時間は初日同様に計1時間となっている。表彰式は、通例行われている優秀ポスター発表賞の表彰を行う。デジポスから選抜WSへ再選抜された演題(計6演題)もこの場で発表する。再選抜の審査には少し時間がかかると予想されるので、発表するタイミングはこのタイミングとした。2日目のランチョンはイルミナ。最終日は、ランチョンは国立研究開発法人科学技術振興機構。演題数が多いので選抜WSは朝8:00からスタートする。評価は、ランチョンとシンポジウムの時間を使って行い、表彰式は15:20から行う予定である。ICD講習会は16:00から開始。協賛金も順調に集まってきている。日本製薬団体連合からの協賛金は、昨年同様に350万円。デジポス再選抜と選抜WSは評価をするが、前回の理事会でも話をしたが、賞の趣旨や先日WSの名称に関しては、以下の通りである。選抜ワークショップ Superior Presentation Awardの趣旨：選抜WSから極めて優れた演題(最優秀賞3名)を選抜・表彰し(評価基準は別紙参照)、日本細菌学会活動のさらなる発展に寄与する。選抜WS優秀賞の名称：「第93回日本細菌学会総会選抜ワークショップ Superior Presentation Award 最優秀賞」。選抜WS演題数と選抜方法：例年通りの基準でWS演題を選抜(36演題)。副賞：最優秀賞 盾と副賞(2万円程度の図書券)。最終日の選抜WSだが、3つの部屋に分かれて実施する。それぞれの会場で評価を行った上で、シンポジウム企画調整委員の先生方に、合議の上で優秀賞2名と最優秀賞1名を決めてもらう予定であった(前回の理事会でそのように報告した)。長宗理事と相談したところ、会場間での評価点のすり合わせが相当難しいのではないかと、ということで、各会場から1名選び、計3名を最優秀賞とすることにした。長宗理事が加筆修正した選抜WSとデジポス再審査の際の審査基準案をつ

けた。評価項目には変更はない。実際の評価の集計方法だが、かなり煩雑になる可能性もあるので、最もいい方法を AE 企画とも相談し案を決め、企画調整委員会ともすり合わせを行い決定したい。総会前日、市民公開講座を開催するが、広告用のチラシが出来上がった。近隣の高校や市民掲示板、北海道大学の教職員などに広く周知を行う予定である。若手の懇親会について幹事から以下のように依頼があった。第 92 回の総会でも例年通り、HP 上への参加受付申し込みリンクの開設と細菌学会メーリングリストでの周知、今回はシニアの会員にも積極的に参加してもらいたいので各支部会の支部長への出席依頼をしたい。またこれらのことを踏まえ、今回は総会長にこの懇親会を公認してもらいたい。これまでは若手の懇親会ということだったので、若手が主催する若手学会員の会と勘違いしているシニアも多いようなので、今回の懇親会は、若手が主催する細菌学懇親会としたい。これら要望についてどのようにすべきか理事会の意見を伺いたい。若手の懇親会は 4/24 水曜日の 19:15 からコンベンションセンターの一階にあるレストランで開催することが決まっている。前日の日の市民公開講座だが、北大人獣リサーチセンターの協力のもと実施されるが、幸いなことに北大 GI-CORE (国内外の研究者ネットワークサポート) が市民公開講座会場費を総会全体の共催となることで賄ってくれることになった。北大 GI-CORE も総会の協賛団体の一つとして加えることを了承してもらいたい。

- 2) 第 93 回総会準備状況報告 (荒川宜親 第 93 回総会長) : 荒川第 93 回総会長が欠席なので、事務局早瀬氏から以下の報告があった。次回の理事会には出席し、そこで総会の準備状況について報告をする予定である。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

①総務・渉外担当報告 (河村理事) : 河村理事より資料に基づき以下の報告があった。平成 31 年 1 月末での会員数とその動向について報告する。名誉会員 38 名 (±0 名)。正会員 1,683 名 (-3 名)。学生会員 512 名 (+54 名)、外国会員 10 名 (-1 名)、賛助会員 32 社 (-1 社)。総計 2,195 名。前回の理事会報告よりは学生会員を中心に増加しているように見えるが、総会に向けての登録に伴うものと考えられる。短い期間で見ると若干増えているように見えるが、長いスパンで見ると会員減少に歯止めがかかかっていないので、まだまだ会員を増やす工夫が必要である。平成 30 年 1 月 30 日は 2,270 名だった。それに比べ平成 30 年の総会時の会員数 (2,330 名) は 60 名ほど増えているが、総会に向けて登録者数が増加したためである。年単位で見ると、会員数の下げ止まりに歯止めがかかかっていない。赤池理事長とも相談し、新しい会員の種別を設ける方向で検討に入っている。

②選挙関連担当報告 (川原理事) : 特になし。

2) 財務部会報告

①会費・会計担当報告 (河村理事) : 河村理事より以下の報告があった。審議事項の方で決算と予算について審議するので、その際に報告したい。

3) 広報部会報告

①広報・メディア分野担当報告 (河村理事) : 河村理事より以下の報告があった。総会時のプレスリリースだが、審議事項で説明をしたい。

②HP・SNS 分野担当報告 (中川理事) : 特になし。

4) 産官学連携部会報告

①産官学連携分野担当報告 (菊池理事) : 菊池理事より資料に基づき以下の報告があった。産官学連携委員会だが、新たに 2 名の委員を追加した。一名は、日本微生物研究所 (臨床検査・食品微生物検査) の齋藤氏。学会には積極的に支援をしてもらっている。今後、産官学連携のシンポジウムや市民講座に積極的に協力してもらえることになっている。もう一人は、産学共同システム研究所の白井氏。産官学連携の草分け的な存在。大学と経団連の連携についての橋渡しなど、色々なノウハウを持っている。具体的なパートナーシップの成功例の紹介や機材関連の対策などを、今後委員会企画のシンポジウムや講習などを行う際に、参加してもらいたいので委員を要請した。

5) 学術部会

①学術支援・評価担当報告 (長宗理事) : 長宗理事より以下の報告があった。学術支援について報告事項は特段ない。

②学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告 (長宗理事) : 長宗理事より以下の報告があった。総会ではポスター

の選考を実施する。シンポジウムの企画調整に関しては、山口理事から話があったように、総会の3日目に3つの選抜WSを行う予定である。最終的な選抜WS優秀賞の審査を行うが、シンポジウム企画調整委員会委員がそれにあたることになっている。デジポスからの再選抜演題(選抜WS希望者で採択されなかった演題)(各WS2演題)の審査については、初日に実施されるデジポス審査で選り、3日目の発表となる。

2. バイオセーフティー担当報告(大西理事): 学会事務局早瀬氏より大西理事に代わり以下の報告があった。病原体等取り扱い管理指針の改訂を進めている。総会中に委員会を開催し、そこで確認をしながら進めるとのことである。
3. ICD制度協議会等担当報告(菊池理事): 菊池理事より以下の報告があった。前回の理事会でも少し話をしたが、ICDの申請(称号付与)が実質的ではない、と言われてきている。それに伴いICDの申請が改定される。臨床現場での実務経験を申請の必須事項とすることが、一番大きな改定点であるが、講習会に参加する回数を増やすことで申請条件が少し厳しくなる。pdfで申請書と新旧対比表を配信したので参照してほしい。条件が厳しくなるということから、細菌学会の会員がICDを申請するのはかなり難しくなるかと思う。

③ 学術交流分野

1. 日本微生物学連盟/日本学術会議担当報告(川原理事): 川原理事より以下の報告があった。日本微生物学連盟の理事会は前回の理事会からないので報告することはない。4/19に次回の理事会が行われる。次回の札幌での理事会では、その内容を報告したい。
2. 日本医学会連合担当報告(菊池理事): 菊池理事より以下の報告があった。加盟学会連絡協議会に出席してきた。話題は、今度3月に改定される「医師の働き方改革」で、医学会連合として、どの程度残業を認めるか、といったものがほとんどであった。関係学会に絡むものとして、その学術集会の演題における倫理手続きに関する指針を日本医学会連合として出すことになった。2017年5月に倫理指針の法律改正が行われた(その前2月に医学系の倫理指針の改定があった)。それに伴い人を対象とした研究に関わる倫理指針に沿って、学術雑誌への投稿がされなければいけない、ということになった。学会の総会などの演題に関しても同じ扱いとなり、応募演題のカテゴリーに応じて、学会演題を登録する際に必要な項目にチェックを入れなければいけないようになる。赤池理事長より以下、追加発言があった。今度の学会総会においても、人を対象とする研究の場合には、この指針に準じた取り扱いを(発表)することになる。今回の札幌は間に合わないが、次回にはそういう形でしかるべき手続きしてもらおう方向になる。HPに資料をアップロードし会員向けに開示し、対応を呼びかけたい。総会担当者をお願いするのではなく本部マターとなる。すでにCOIに関しては同様の対応をすることになっている。具体的にはHP上にバナーを設けることになる。
3. 予防接種推進専門協議会担当報告(菊池理事): 菊池理事より以下の報告があった。話題のほとんどは、世間で騒がれている風疹抗体価がない男性へのワクチンの定期接種の具体案にさかれた。2019年1月から始まる。この具体的な内容についての説明。もう一つ話題になったのは、外国人受け入れの際の、在留資格の創設(3月に法案が通る)。そこにはワクチン接種歴、胸部レントゲン写真など、感染症の既往に関する項目が一切ない。これに関して協議会としては、何らかの要望を出したほうが良いのでは、ということになった。例えば日本国の申請にあたっては、胸部レントゲン写真の提出が必要だが、こういう項目すらないので、麻疹、風疹だけではなく、外国人労働者が沢山入ってくると、色々な感染症が増えてしまう可能性があるため、そこに何らかのブロックをかける必要はないだろうか、といった議論がされる。細菌学会からの要件は、私に言ってもらえれば協議会に提案したい。

6) 教育部会報告

- ①次世代教育・人材育成担当報告(松下理事): 特になし。
- ②教育資源発掘・保存担当(松下理事): 松下理事より以下の説明があった。前回の理事会の宿題だが、「ミクロの世界からのメッセージ」については審議事項で審議してもらおう。

7) 出版部会報告

- ①学会誌担当報告(大西理事): 特になし。
- ②MI誌担当報告(寺尾理事): 寺尾理事より以下の報告があった。刊行状況だが(前回理事会以降)、2018年12月号と2019年1月号は、スケジュール通り刊行された。2月号については、細菌学とウイルス学から、インパクトファクターが上がりやすいということで、レビューが1編ずつ、計2編が掲載される予定

である。しかしながら現在、受領論文数が少なくなっている。3月、4月号が合併号になる可能性がある。細菌学とウイルス学に関しては、問題なく論文投稿数に合わせ査読も進んでいるが、Immunologyが現在に至るまで、まだ一編も受理も revise もない。3月に対面式で会い、投稿要望を伝えていく。同時に3月に、責任者でミーティングする際に、前回西川理事から意見があった、minor revisionのような軽微な修正の際には、自動的にレフリーに回すのではなく、Editor レビューで accept が出せるようなシステム改修を進めて行こうかと思う。ワイリーの方では、了解をもらっている。ウイルス学会と生体防御学会の方のOKさえもらえれば、年度内の改修も可能である。IFを上げるために、オープンアクセスの効果的な使い方を考えていきたい。お金を払ってオープンアクセスをすると、著者にとっては被引用数が上がりやすいと言われている。結果としてジャーナルのIFが上がりやすいと言われている。具体的な数値データがないので、ワイリーと数値データを検証して具体的に提示したい。次回4/22理事会には資料を持参して説明をする予定である。

- ③用語集担当報告（富田理事）：富田理事より以下の報告があった。昨年、用語集冊子体の発売が停止となった。残った在庫を南山堂の方からどうするかということで問い合わせがあった。二部を学会に寄贈。残りは処分することになった。厚生労働省国際分類情報管理室から日本医学会を通して本学会にICD-11という用語集英語版について、感染症あるいは病原微生物の英語名の日本語訳について意見がほしいといった問い合わせがあった。これに対して用語集担当の川原理事、河村理事と私でチェックをして、意見を提出した。

8) 国際交流部会報告

- ①IUMS 等担当報告（中川理事）：特になし。
- ②日韓微生物等担当報告（小松澤理事）：小松澤理事より以下の報告があった。特に報告はないが、今回は韓国側が主催するが、今の所細菌学会の方には連絡は入っていない。すこし心配なので先程理事長とも話をしたが、前回の担当者に状況を聞くことにする。赤池理事長より、韓国側の担当者が交代している可能性もあるので、その辺りも含めてリマインドしてほしい。まだ開催は来年(2020)と十分に時間があるので、どのタイミングで、どこでどういう様式で開催されるのか、早めに把握して、細菌学会としてもしっかり対応していきたい。

9) 社会交流部会

- ①研究倫理・安全保障分野担当報告（赤池理事長）：赤池理事長から以下の報告があった。菊池理事が人の倫理指針の改定に伴う話があったように、会員に周知し適切に対応していきたい。
- ②利益相反担当報告（中根理事）：特になし。

10) その他 特になし。

V. 審議事項

1) 賛助会員の種別設定について:

赤池理事長より、会員数確保に繋がるため、これまで明確にならなかった賛助会員の種別を設定したいことが述べられた。現状の団体会員に加え、新たに「教育賛助会員」、「ジュニア賛助会員」の2つの種別を設けることについて提案され、その申し合わせ案が提示された。審議の結果、これが了承され、評議員会に諮ることとなった。なお、ジュニア会員の場合は保護者の承諾を必要として、Web入会とは別枠とする。申し合わせ案は、会則と整合性が取れるように更に修正し、次回理事会前にメールで内容が提示されることとなった。

2) 平成30年度決算(案)について(会計監査報告含む):

河村理事より、平成30年度決算(案)について説明がなされ、単年度収支は4,356,922円の黒字であり、次年度繰越金は17,400,180円とのことだった。

松下理事より、支出項目の「教育活動費」について、細菌学若手コロッセウム支援費は結果として30万円返納されているが、一旦は支出されていることから、返納分は雑収入に計上すべきではないかとの指摘を受け、そのように修正することとなった。(これに伴い、収入・支出の双方の項目において、合計額が変わる。)

川端監事より、西川監事と共に1月24日に会計監査を実施し、適正に予算が執行されていることを確認したことが報告された。

審議の結果、小林六造記念賞・黒屋奨学賞の決算と共に承認され、評議員会に諮ることとなった。

3) **平成 31 年度予算 (案) について:**

河村理事より、前回理事会で提示した内容から変更はないとして、最終案が提示された。審議の結果、小林六造記念賞と黒屋奨学賞を含め予算案が承認され、評議員会に諮ることとなった。

4) **各支部の 2019 年支援要請について:**

赤池理事長より、これまでの日本細菌学会の発展は支部のサポートによるため、できる限り支援を継続していきたいが、財政上、縮小する流れも引き継いでいきたいことが述べられた。また、本部の活動方針に沿ってほしいため、今後は産官学連携や若手人材育成に係る取り組みを強く求めていくとのことであった。支援を希望する支部には、本部から提示する様式を提出していただくこととして、様式の案が提示された。審議の結果、内容を多少修正することとして、承認された。支援の可否や支援額は次回理事会で審議する。

5) **第 92 回総会のプレスリリースについて:** 河村理事より資料に基づき以下の説明があった。事前にメールにて取材容量など確認してもらっているが、実際にマスコミ各社に送る FAX 原稿を現在作成中である。当日取材にきたマスコミは受付で、取材要領を確認してもらうことになる。取材要領の遵守に関して同意書に署名をしてもらい、実際の取材となる。フリーランスへの対応だが、取材目的と所属機関等が不明な場合には取材を断ることとなる(所在が明らかなメディアのみ取材を許可する)。取材要領の要点をかいつまんで説明する。取材が許可されたマスコミにはプレス証をつけてもらう。マスコミは各種打ち合わせ室や控え室には入れない。学会の聴講や進行を妨げないように取材をしてもらう。プレスリリースの講演を除いては、特段何も許可を出していないので、特定団体や個人への取材が必要になった場合には、必ず取材対象の許可を取ってもらう。これが一番大事だと思うが、発表スライド内容やポスターの掲示内容の撮影に際しては必ず発表者の許可を得た上で行ってもらう。個人情報保護の観点から特定の個人が写り込まないように配慮をしてもらう。会場内での携帯電話での通話は禁止。取材の仲介はしないことになっている。これらの内容を遵守できない場合には、撮影・記録データの破棄を依頼することになる。また取材対象は、日本細菌学会が公認しているものではない、ということも明記した(記事を書く際にはこのことを留意して書いてもらう)。プレスが来た際には、このような要領を踏まえ、取材を受けてほしい。今回、プレスリリース講演の案内を出したところ、全部で 20 演題となった。この 20 演題については、プレスリリース集に載せてマスコミ各社に Fax で配信することになる。マスコミに送る原稿を今回の理事会には提示できなかったが、実は昨年 7 月の理事会でその雛形を確認してもらっている。表紙をつけてプレスリリース集を送りたい。プレスリリース集には一般向けのキャッチフレーズと一般向けの内容紹介文等が載る。取材を受ける側だが、各発表者にもこれは学会が公認しているものではない、各個人が自分の責任において研究を進めていることを、ちゃんと踏まえて取材を受けてほしい。取材側にも学会が公認しているものではないので、そのような理解のもとで記事を書いてください、と依頼することになる。ただし日本細菌学会総会で発表したということになるので、内容がおかしくなったとしても発表者本人の責任となる。よって各発表者の発表内容については学会が責任を持つ必要はないと考えているが、プレスリリース集の内容(疑義がないか)について、それで良いか審議してほしい。20 ページもあるのでこの場での確認はできないので資料をメールにて事前配布した。プレスリリース対象演題として 20 演題を採択しても良いか、審議してほしい。審議の結果、20 演題全てプレスリリース対象演題として採択することが了承された。採択された演題発表者には、明日にも採否をメールにて伝えることにする。4 月 10 日頃になるかと思うが、総会中にマスコミが入る可能性がある、といったことと、プレスリリースに登録していない演題に関しては取材に答える義務は全くないが、取材要請があった際には取材を受けるかどうか個別に判断してほしい、といった案内文を会員全てにメールリストにて配信する予定である。

6) **第 94 回(2021 年)総会長について:** 赤池理事長より以下の説明があった。第 94 回(2021 年)総会長候補者をこの場で決定したい。事前にメールで候補者の推薦依頼をしているが、推薦者がいればぜひ提案してほしい。審議の結果、候補者は上がったが、次回理事会にて候補者を最終決定することになった。

7) **小林六造記念賞について:**

赤池理事長より、応募者が少ないことから、各理事が周辺に声がけする方向性で進めたいことが述べられた。次回理事会で更に意見交換をしていくこととなった。

8) **「ミクロの世界からのメッセージ」について(前回理事会からの継続審議):**

松下理事より、以前発行されている「ミクロの世界からのメッセージ」は磯貝恵美子先生が中心となって作成されていることが判明し、復刻版として再発行したいこと、また、そのために著作権をクリアにする必要があり、磯貝先生、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、海洋研究開発機構(JAMSTEC)と連絡を行っていること

が述べられた。審議の結果、復刻版として発行する方向性が承認され、経費については改めて議論することになった。

9) 評議員会、会務総会の次第(案)について:

審議の結果、評議員会と総会の議事式次第と担当者に関して了承された。また議事内容については次回の理事会でも確認することになった。

10) 議事録作成について: 赤池理事長から以下の説明があった。議事録はもう少し簡略化できればと思っている。開示する部分にあっては、あまり詳細を開示する必要もないかと思う。もちろん手元にメモとして持っているのは良いと思うが(赤文字でマークしてある箇所は助かるが)。簡略化することで議事録担当理事の負担あるいは他の理事が担当する際の負担を軽減できるのではと思う。具体的な方法については、検討し提案したい。総会の議事録作成は今まで早瀬氏が行っていたが、今度の総会は、庶務担当理事で担当する。また次回の理事会と評議員会までは、これまで通り高井理事と山口理事が議事録の作成を行う。

11) 次々回(7月~8月)の理事会開催日について: 日程調整に関してメールにて改めて照会することになった。

VI. その他

● **次回(2019年第2回)理事会について(第92回総会前日):**

日時=2019年4月22日(月) 11:00~14:00

会場=札幌コンベンションセンター1階 105会議室

● **評議員会について:**

日時=2019年4月22日(月) 14:00~16:00

(16時から市民公開講座のため、例年より開始時間が早い)

会場=札幌コンベンションセンター1階 中ホール

● **会務総会:**

日時=2019年4月24日(水) 13:00~14:10

会場=札幌コンベンションセンター特別会議場

VI. 閉会